

豊郷町隣保館だより

2022年7月22日発行 豊郷町隣保館 ☎0749-35-0611 No.220



豊郷病院に技能実習生として勤めている彼女はネパールが故郷です。漢字の読み書きを頑張っています。

2回目の集合写真。子どもたちの笑顔が最高です！

外国籍をはじめとする、多様なルーツをもつ人のための『日本語読み書き教室』

総務省によると、多文化共生は、『国籍や民族などの異なる人々が互いの文化的違いを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員としてともに生きていくこと』と定義されています。

6月30日現在、本町の人口は、7,227人となっています。その内、237人が外国にルーツがある人たちですが、日本語を話したり、読み書きすることが困難な外国籍の人たちは、地域コミュニティに馴染むことができず、生きづらさを感じている人も少なくないと思われます。学校で学ぶ子どもたちにも同様のことが言えるのではないのでしょうか。

隣保館では、日本語を学びたいという人たちの想いを受けとめ、7月2日(土)から『日本語読み書き教室』をスタートしました。日本語を学ぶ教室と同時に、外国籍の人たちと近隣地域のみなさんが互いの文化を交流し合える場にと考えています。2回目となった16日(土)は、午後2時から4時まで、講師さんと一緒に『ひらがな』の読み書きをする小学生や、漢字ドリルを開いて写し書きをする人など、子どもたちも大人も時間を忘れるほど集中していました。どのグループも、和やかな雰囲気の中、笑顔で向き合う楽しい学びの時間となりました。次回23日(土)は、教室のみなさんで、ブラジルのお菓子作りをすることになっています。

「楽しかったよ。また、来週ね！」笑顔で帰るみなさんを見送りながら、またひとつ隣保館に新しい『居場所』が加わったことを嬉しく感じています！